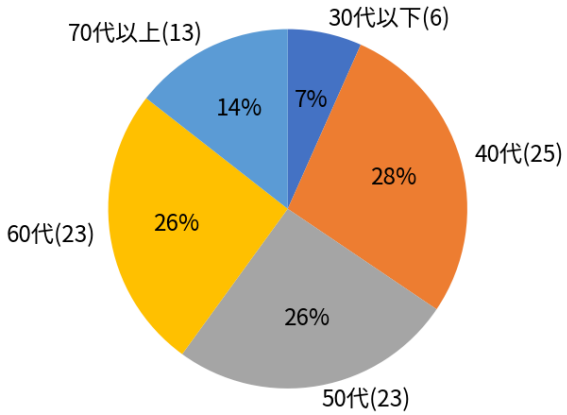
資料３

豊川市観光事業者アンケート　集計結果　N=90（各設問は無回答・未記入を除いた有効回答数のため N 数が異なる）

1. 回答者の属性

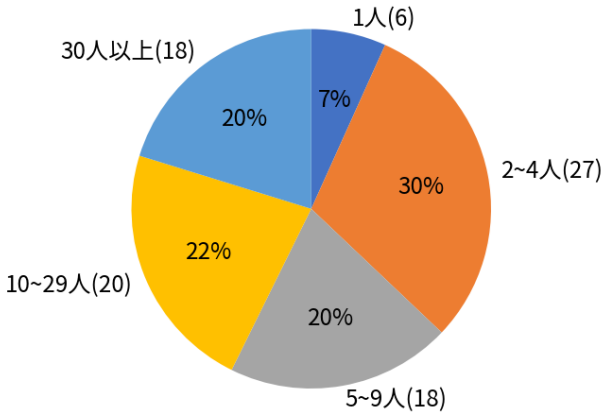
①代表者（回答者）の年代　（N=90）

40 代・50 代・60 代がいずれも 26～28%を占め、幅広い年代から回答が得られた。



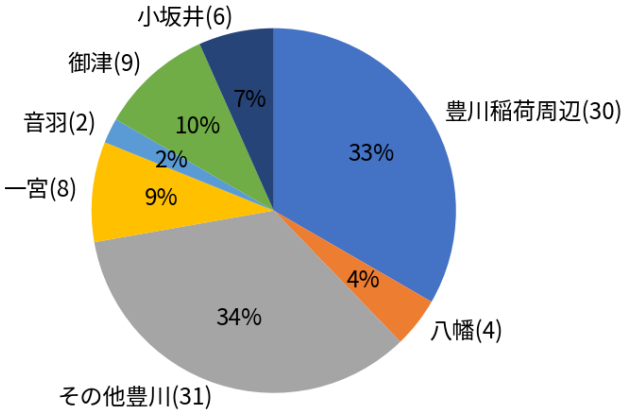
②従業員数　（N=89）

「2～4 人」が 30%と最多で、小規模事業者からの回答が中心となっている。



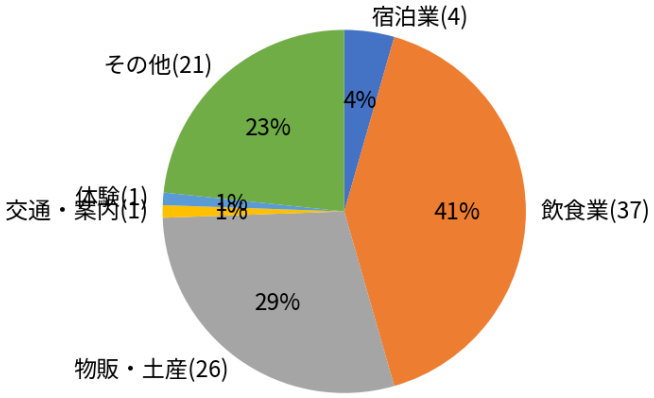
③事業所のある場所　（N=90）

「その他豊川地区」（34%）、「豊川稲荷周辺エリア」（33%）が上位を占め、事業所の立地は市内に広く分散している。



④主な業種　（N=90）

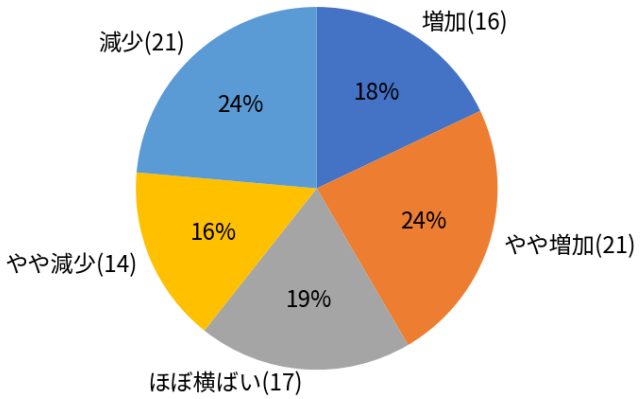
「飲食業」が 41%と最も多く、次いで「物販・土産業」が 29%を占める。



2. 景況感（コロナ前比）

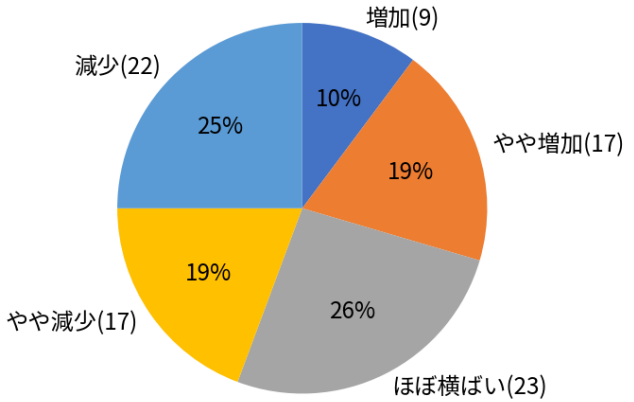
⑤景況感（売上）　(N=89)

「増加・やや増加」計 42%、「やや減少・減少」計 39%とほぼ拮抗し、事業者間で業況の差が見られる。



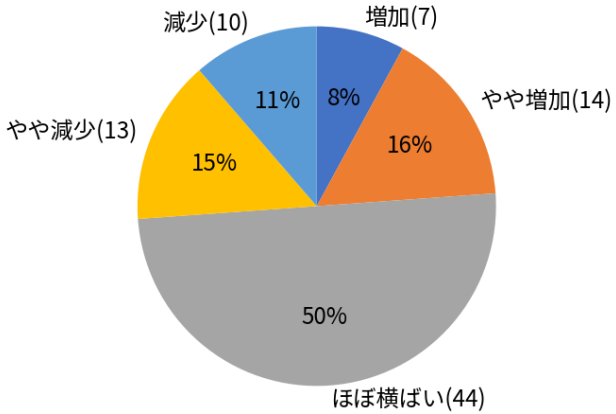
⑥景況感（利益）　(N=88)

「ほぼ横ばい」（26%）、「減少している」（25%）が上位となり、売上に比べ利益面はやや厳しい傾向がうかがえる。



⑦景況感（従業員数）　(N=88)

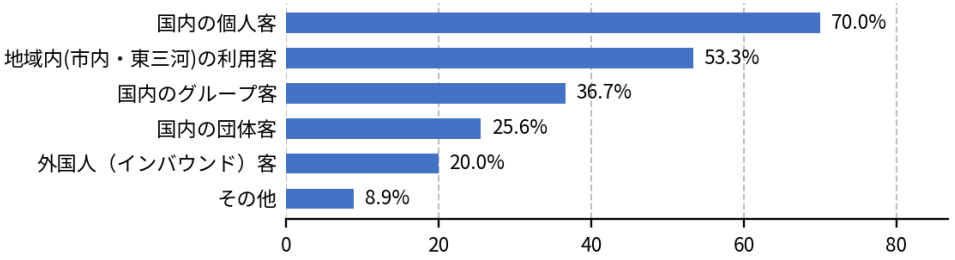
「ほぼ横ばい」が 50%と半数を占め、雇用規模に大きな変動がない事業者が多い。



3. 観光に関する実態

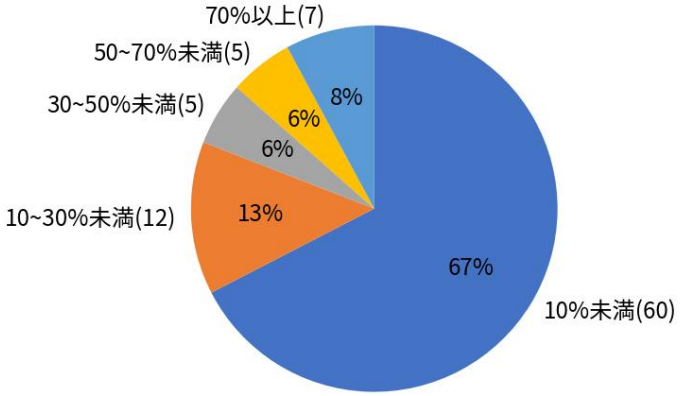
⑧主なターゲット客（複数選択） (N=90)

「国内の個人客」が 70%と突出して多く、次いで「地域内（市内・東三河）の利用客」が 53%を占める。



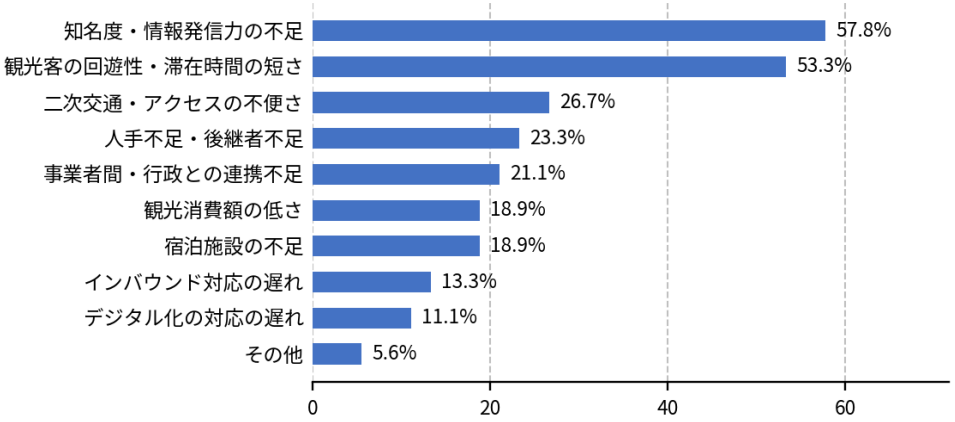
⑨全売上に占める観光関連の割合 (N=89)

「10%未満」が 67%を占め、多くの事業者にとって観光関連売上への依存度は低い。



⑩経営上の課題（3 つ以内で複数選択） (N=90)

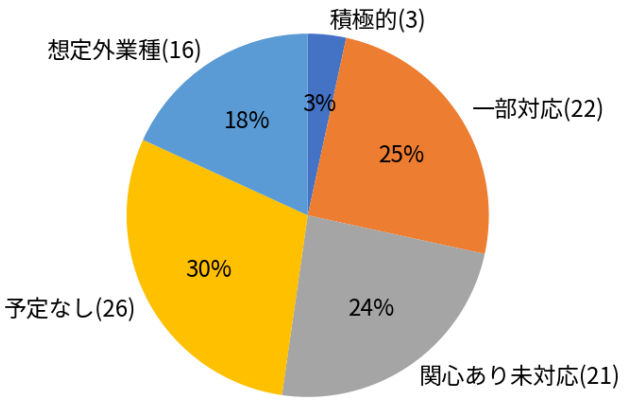
「知名度・情報発信力の不足」（58%）、「観光客の回遊性・滞在時間の短さ」（53%）が上位 2 課題となっている。



4. インバウンド・観光 DX への対応　／　5. 今後の事業展望

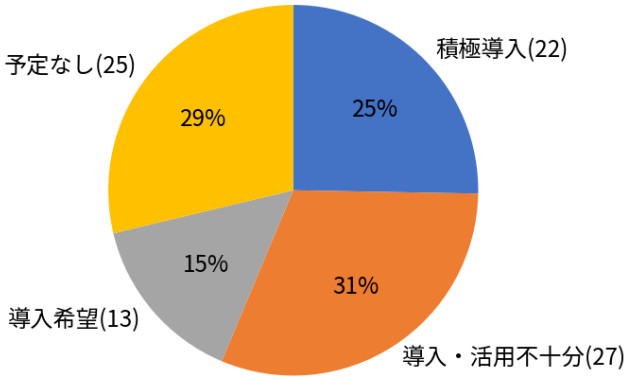
⑪インバウンド対応状況　（N=88）

「現状では対応する予定がない」（30%）が最多で、「一部取り組んでいる」（25%）「関心はあるが取り組めていない」（24%）と続き、対応は道半ばの事業者が多い。



⑫観光 DX 取り組み状況　（N=87）

「導入しているが十分に活用できていない」（31%）、「特に導入する予定はない」（29%）が上位を占め、DX 活用の定着には課題が残る。



⑬今後の事業方針　（N=85）

「積極的に拡大・発展させたい」が 51%と半数を超え、前向きな事業者が多数を占める一方、「廃業・閉業を検討している」も 6%存在する。

